

## 平成27年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

### 1. 集落の状況及び集落協定の概要

都道県名：沖縄県

市町村名：北中城村

協定締結集落名：北中城村漁業集落

交付金額合計：3,624千円

(1) 基本交付金：3,624千円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0千円

協定参加世帯数：37世帯、41人（うち漁業世帯30世帯、34人）

都道県の都市部の勤労者世帯の有業者一人当りの平均勤め先収入2,760,097円

集落の平均漁業者所得558,532円

### 2. 協定締結の経緯

北中城村は起伏に富んだ丘陵地が多く、そこから流れる河川から豊富な栄養分を含んだ水が流れてくる良好な漁場環境を有しており本村の漁業者にとって貴重な漁場である。本村の漁業については、中城湾港熱田地区周辺の干潟において、アーサ（ヒトエグサ）の養殖が盛んである。しかし近年は、アーサ養殖場周辺の環境の変化による生産量の減少・品質の劣化、魚価の低迷、燃料・養殖関連資材などの高騰、漁業者の高齢化により本村水産業は低迷の傾向にある。

このため北中城村は漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する話し合いを通じて漁業の再生のための取組の決定や新技術・漁法の導入等に取り組める環境を整えるとともに、アーサ生産量の増大・品質の向上に係る取組みや、生産から流通・販売までの効率化に係る取組みを継続的に実施し、漁業者の所得向上及び漁業者数の増加を目標に離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むことにした。

### 3. 取組の内容

#### ①漁場の生産力の向上に関する取組状況

・漁場の管理・改善

雑藻の滞留によるアーサ種の生育阻害、養殖網への雑藻の付着によるアーサの育成阻害を防ぐ為、養殖場周辺の雑藻収集を実施。



「雑藻収集の様子1」



「雑藻収集の様子2」

・アーサ生産量向上・品質の改善への取組み

他市町村の漁場からアーサの種網を移設し、育成状況を記録することで、生産量減少の原因調査を実施。又、収穫機を導入し、効率のよい収穫方法を検討し集落全体で情報共有を図る。



「収穫機使用状況」



「収穫機使用状況2」

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

・集落共有のアーサ養殖網を設置

生育の悪い養殖場に集落共有のアーサ養殖網を設置し、生産～収穫体制の合理化を図る。



「共有のアーサ養殖網設置の様子」



「共有のアーサ養殖網」

- ・流通販路の確保

県外の即売イベントに積極的に参加し、販路拡大への取組みを実施。



「販売の様子」



「販売の様子2」

- ・イベントの開催

北中城村内の団体と連携して鮮魚販売会、模擬せりを開催し水産物の普及促進を実施。



「鮮魚販売の様子」



「模擬せりの実施」

- ・体験漁業の取組み

村内の子どもたち（島袋小学校62名）を対象にアーサ収穫体験を実施。



「体験学習の様子」

### ③新規就業者に係る取組状況

特になし

## 4. 取組の成果

### ・ 漁場の管理・改善

雑藻が滞留、腐敗することでアーサ種の生育を阻害している恐れがある為、雑藻の収集を実施した。生産量の増加や品質の向上などの具体的な数値は把握が困難だが、雑藻は特にアーサ種の増加に悪影響を与える恐れがあるため、継続して雑藻の収集を行い、漁場の環境改善に取り組む必要がある。

### ・ アーサ生産量向上・品質の改善への取り組み

他市町村（恩納村）の漁場より移設したアーサの種網を3箇所に分けて設置し、育成状況を観察することで、生産量が減少している原因を調査した。当初は3枚とも順調に育成していたが、育成が特に悪い場所が1箇所見られた。しかし、今年は養殖場全体で育成状況が悪かった為、生産量減少の原因が種網でない可能性がある。アーサ生産においては自然環境や養殖場周辺の環境にも影響される為、生産量減少の原因の把握は困難であるが、これらの調査データを積み上げながら今後も生産量の向上を図る必要がある。

又、共有のアーサ養殖網の収穫作業を集落構成員で実施することで、個別に収穫作業を行っている漁業者に対して、効率の良い収穫方法の検討、情報提供を行うことができた。今後も継続して勉強会等を開催し、生産・収穫技術の向上の取組を行うことで、生産量の増加、品質の向上を図る必要がある。

### ・ 共有のアーサ養殖網の設置

育成不良等の理由から漁業者が養殖網の設置をしていない養殖場に集落構成員共有のアーサ養殖網を170枚設置し、漁場の拡大の可能性や生産～収穫体制の合理化に向けた取り組みを実施した。生産～収穫方法の合理化を図る為の勉強会や村内の子どもたちへアーサ収穫体験を実施した。又、これまで育成が悪い漁場と思われていた養殖場においても、収穫量が良好であった為、今後の漁場の拡大及び生産基盤強化に繋げるよう継続してアーサ網を設置し、生産量の増加を図る必要がある。

### ・ 流通販路の確保

わたしたショップ銀座店でアーサの即売イベントに参加し、アーサスープとアーサの粉太郎（沖縄風お好み焼きの素）の試食販売を実施することで、県外消費者へアーサのPRを行うことができた。しかし、東京ではアーサの認知度が低くアーサの説明を求められることが多かった為、継続した販促活動を行う必要がある。

### ・ イベントの開催

北中城村農水産物フェア実行委員会と連携し、集落構成員が水揚げした水産物の即

売会、模擬せりを開催することで、消費者に対して北中城村の水産品のPRができた。

・体験漁業の取り組み

村内の小学生を対象に収穫体験を実施することで、子どもたちに本村の特産品であるアーサへの関心、理解を深める機会を作ることができた。又、近年、新規漁業者が減少している中、職業としての漁業に対する意識の向上に繋がった。